



# 復興と平和構築

## Reconstruction and Peacebuilding



「復興と平和構築」はアフリカの開発途上国に限ったものではない。イラク、アフガニスタン、「アラブの春」以降の地中海周辺地域の動揺、ウクライナの諸問題、一触即発の朝鮮半島にも当てはまる。紛争のみならず大規模な自然災害は、基礎的な社会インフラやガバナンスが乏しく、対応能力の脆弱な国、地域、そして社会的に最も弱い立場におかれた人々に壊滅的な影響を与える。グローバル化がかってないスピードで拡散している今日の世界に於いて、そのダメージは深刻かつ広範にならざるを得ない。シリア等からの難民危機が、戦後歴史の成功物語であった EU を分断しかねないことを見ても明らかである。破壊された社会を復興し、より平和で民主的な国家・社会を創り維持していくためには、緊急的、初動的な対応を適切に行うことはもちろん、同じような災禍が将来繰り返さないための息の長い取り組みが必要である。世界経済の成長に陰りが見え、多くの国に人的なものを含め資源に大きな制約のある時、これは容易なことではない。米中露三国が対立的競争に陥っている 21 世紀世界における平和構築について大胆率直な議論を試みたい。

*Reconstruction and Peacebuilding* is not confined to developing countries in Africa, but it also concerns the present pandemonium in Iraq, Afghanistan, the post-Arab Spring Mediterranean seaside areas, Ukraine conflicts, and highly volatile Korean Peninsula. Conflicts and large scale natural disasters can totally devastate the countries and regions whose disaster response capacity is severely limited due to the weak governance and lack of basic social infrastructure. Consequently, major damage is inflicted on the regions' socially vulnerable people. Effects of such major catastrophes are becoming even broader and more immense in today's fast globalizing world. This is clear from the refugee crisis that has become a divisive issue in the EU who was once the epitome of success in the post WWII international order. Building and maintaining more peaceful nation and society not only require appropriate urgent response to any disaster. We also need longstanding approach so that we do not reiterate tragedies. However, this is not an easy task especially today when economic growth began to falter worldwide and many countries are facing serious deficit of human and other resources. In this symposium, we will have a candid discussion on the prospect of peacebuilding in the world of 21<sup>st</sup> century where the US, China and Russia engage in a competitive confrontation.

Date & Time: November 18<sup>th</sup>, 2017, 13:00-17:20  
 \*Venue open 12:30  
 Venue: Higashi-Senda Innovative Research Center 4F,  
 Hiroshima University (Higashi-Senda Campus)  
 (1-1-89 Higashi-Senda-machi, Naka-ku, Hiroshima City,  
 Hiroshima, Japan 730-0053)  
 Language: English / Japanese (with simultaneous  
 interpretation)  
 Hosted by : Institute for Peace Science, Hiroshima University

【日 時】2017年11月18日(土) 13:00-17:20  
 ※開場 12:30  
 【場 所】広島大学東千田キャンパス  
 東千田未来創生センター 4F  
 ※入場無料(先着100名)  
 【言 語】英語 / 日本語(同時通訳付)  
 【主 催】広島大学平和科学研究センター

Seat availability is limited so please apply by e-mail or phone if you are interested in attending. However, you can join in the symposium without reservation, as far as the seats are available. 参加ご希望の方は、下記内容をFAX(送信表不要)、またはメール(件名を「シンポ申込み:氏名」とする)にて事前にお申し込み下さい。

(↓Fax用) 定員を超えました場合、お断りさせて頂くことがあります。また、席に余裕がある場合は、当日参加も受け付けます。

Name ご氏名	This symposium is partly subsidized by Hiroshima University under the "Program for Promoting the Enhancement of Research Universities." 本シンポジウムは、広島大学研究力強化促進事業からの補助を受けています。	<申し込み先/Contact Address> 広島大学平和科学研究センター 〒730-0053 広島市中区東千田町1-1-89 Institute for Peace Science, Hiroshima University Higashisenda-machi 1-1-89, Naka-ku, Hiroshima 730-0053 TEL : 082-542-6975 / FAX : 082-245-0585 E-mail : heiwa@hiroshima-u.ac.jp URL : http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/
Company ご所属		
Tel or E-mail		

# 2nd International symposium 2017 hosted by Institute for Peace Science, Hiroshima University 広島大学平和科学センター主催平成29年度第2回国際シンポジウム

13:00 ~ 13:10 開会の辞/ Opening Remarks



**Mitsuo Ochi**  
**越智光夫**

広島大学長

2007~11年広島大学病院病院長、2008~11年理事、2011~12年理事・副学長、2012~15年学長特命補佐を歴任、2015年4月より広島大学学長。2010年に文部科学大臣表彰「科学技術賞」、2014年に産学官連携功労者表彰「厚生労働大臣賞」を受賞。医学博士。

13:10 ~ 13:15 趣旨説明/ Explanation of Aim



**Noriyuki Kawano/川野徳幸**  
広島大学平和科学センター長

広島大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了(医学博士)。広島大学原爆放射線医科学研究所附属国際放射線情報センター助手・助教、広島大学平和科学センター准教授、教授を経て、2017年4月より現職。専門は原爆・被ばく研究、平和学。

13:15 ~ 14:15 基調講演/ Keynote Speech 「復興とコミュニティ」 “Reconstruction and Community”



**Hitoshi Abe**  
**阿部仁史**

有限会社阿部仁史アトリエ 代表取締役  
UCLA 芸術・建築学部 都市・建築学科 教授  
UCLA Paul I. and Hisako Terasaki 日本研究センター所長

1962年宮城県生まれ/1992年阿部仁史アトリエ開設/2002~07年東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻教授/2007年~16年UCLA芸術・建築学部 都市・建築学科 教授/2010年~UCLA テラサキ日本研究センター所長/博士(工学)。主な受賞に、吉岡賞/BCS賞/日本建築学会賞/BusinessWeek・Architectural Record賞/SIA-GETZ Architecture Prize/日本建築学作品選奨 他。主な作品に、七ヶ浜町復興公営住宅、ウーイン経済経営大学、3M本社ビル、宮城スタジアム、菅野美術館、青葉亭、F-townビル 他。

14:25 ~ 15:25 発表/ Presentations, 15:35 ~ 17:10 登壇者による討論/ Discussion by Speakers



**Tsuneo Nishida**  
**西田恒夫**

広島大学学長特命補佐  
(平和担当)  
平和科学センター  
名誉センター長

1970年東京大学法学部卒業後、外務省入省。1999~2001年在ロサンゼルス日本国総領事、2001~02年経済協力局長、2002~05年に総合外交政策局長、2005~07年に外務審議官(政務)、2007~10年に特命全権大使カナダ駐劔兼国際民間航空機関日本政府代表、2010~13年に国連日本政府常駐代表特命全権大使などを歴任。2014年4月~2017年3月広島大学平和科学センター長(同特任教授)、2017年4月より同名誉センター長。広島大学学長特命補佐。



**Hong-Kyu Park**  
**朴鴻圭**

高麗大学  
平和と民主主義研究所長  
グローバル日本研究院  
運営委員・教授

1961年韓国ソウル生まれ。1990年韓国高麗大学校大学院政治外交学科修士課程修了。2000年東京大学大学院法学政治学研究所博士課程修了、博士号修得。高麗大学校亜細亜問題研究所研究助教授を経て現在、高麗大学平和と民主主義研究所長、グローバル日本研究院運営委員・教授。グローバル日本研究院のプロジェクト、「東アジアの戦争と平和、そして共同体」の推進メンバー。著書に『山崎闇斎の政治理念』等。



**Kate Fearon**  
**ケイト・ファーロン**

欧州対外行動庁(EEAS)  
文民活動本部  
特別顧問

北アイルランド女性連合(NIWC)の結党メンバーとして、アイルランド共和国政府と英国政府間の和平交渉(1996~1998年)に参画、ベルファスト和平合意の締結に尽力。スーダン、アフガニスタン、ボスニアにおいて、英国政府や多国籍機関で平和構築に従事。コソヴォ国際文民代表(ICR)ミロヴィツァ事務所長、EU法の支配ミッション(EULEX)代表等を経て、現在EU欧州対外行動庁(EEAS)文民活動本部の特別顧問をつとめる。

モデレーター



**Mari Katayanagi/片柳真理**

広島大学平和科学センター副センター長  
広島大学大学院 国際協力研究科 副研究科長・教授

国連東スラボニア暫定統治機構人権担当官、民生担当官、在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本大使館専門調査員、ボスニア・ヘルツェゴビナ上級代表事務所政治顧問、JICA研究所主任研究員等を経て2014年4月広島大学大学院国際協力研究科准教授就任、2015年4月同教授。2016年4月より、同副研究科長。著書にHuman Rights Functions of the United Nations Peacekeeping Operations (Martinus Nijhoff Publishers, 2002)等。

17:10~17:20 閉会の辞/ Closing Remarks

川野徳幸 平和科学センター長



**(総司会) Shinsuke Tomotsugu/友次晋介**  
広島大学平和科学センター准教授

2010年名古屋大学大学院修了、博士(法学)。2008年ジョージワシントン大学客員研究員、2011~14年名古屋短期大学英語コミュニケーション学科助教を経て、2014年4月より現職。

会場地図

